

房総がんケアフォーラムのご案内

9月9日(土)午後1時半から亀田総合病院 Kタワー13階ホライゾンホールにて、「第10回房総がんケアフォーラム」を開催します。(参加費無料, 定員60名)

講師にNPO法人サイモントン療法協会副理事長の田村祐樹先生をお招きし、「癒しのプログラム サイモントン療法」というテーマで、がん患者さまとご家族(サポーター)に対する心理療法をご紹介します。サイモントン療法は、すこやかに生きるための心のケア・ヒーリングプログラムです。ご興味をお持ちの方はどうぞご参加ください。(要申込み)

■申込み・問合せ先:

亀田総合病院 がん拠点病院推進センター

TEL: 04-7099-1230 / FAX: 04-7099-1231

(担当: 唐鎌・大橋・黒川)

*お申込みを希望される方は、電話またはFAXにて、参加者氏名と連絡先を添えてお申込みください。お申込み締切は9月2日(土)となります

bayfm「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエフエムの午後のワイド番組『it!! (イット)』では、毎週火曜日午後3時すぎから、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

8月は佐藤理子皮膚・排泄ケア認定看護師が出演いたします。ぜひ、お聴きください。

便失禁に対する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に治療法を含む適切な情報を提供する目的で、毎月専門医等による無料電話相談を実施しています。ぜひこの機会にご相談ください。

■日時: 8月9日(水), 23日(水) 14:00~16:00
9月13日(水), 27日(水) 14:00~16:00

■電話番号: 04-7099-1206(直通)

■対応者: 角田明良医師または高橋知子医師
皮膚・排泄ケア認定看護師

ーリハビリ市民講座ー

テーマ: 腰痛の対処と予防

8月26日(土)午後1時から、亀田クリニック5階リハビリセンター内研修室にて、「リハビリ市民講座」を開催いたします。(参加費無料, 定員50名(当日先着順))

今回のテーマは「腰痛の対処と予防」。当院リハビリテーション室の小山 稔理学療法士が講師となり、日頃、無意識に行っている日常動作と腰痛の関係を説明いたします。また、自分でできる体操や体の使い方など、日々の腰のお手入れについてもご紹介いたしますので、興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



歌とピアノの サマータイムコンサート

8月26日(土)午前11時より「歌とピアノのサマータイムコンサート」をKタワー1階ロビーにて開催いたします。(参加費無料)

小川えみさん(ソプラノ)、日下文葉さん(ピアノ)によるコンサートで、「浜辺の歌」「からたちの花」といった懐かしい日本の唱歌や童謡、歌曲やオペラの名曲までバラエティーに富んだ歌と、「トロイメライ」「舟歌」「エリーゼのために」などのピアノ曲を演奏いただきます。

臨床検査技師の仕事体験

Student Seminar 今年も開催



7月21日(金)、臨床検査技師の仕事を知ってもらおうと、医療職をめざす高校生を対象とした「Student Seminar 臨床検査体験」が開催され、安房地域の高校に通う2・3年生10名が参加しました。

参加者は、採血や超音波検査、糖尿病検査などの体験を通じて、臨床検査技師の仕事に理解を深めました。

腎移植について

臨床心理室 富安哲也

第11話 「腎移植における心理的なサポートって？」

臨床心理士と言うと、心療内科・精神科の患者さまとお話をする、いわゆる「カウンセリング」のイメージが強いかもしれませんが。しかしながら、身体の病気になると、うつ病になる可能性が上がるという研究もあり(表1)、当院の臨床心理室では、そういった患者さまへの心理的なサポートを行っています。腎移植を行うレシピエント、ドナー(腎臓の提供者)、それぞれに対して継続的なサポートを行っています。

表1 身体疾患におけるうつ病の合併率

疾患	うつ病の頻度(%)
がん	20~38
冠動脈疾患	16~23
糖尿病	8.5~27.3
血液透析	6~34
パーキンソン病	28.6~51

※千田ら 臨床精神医学 2006 35(7)927~933より抜粋

今回は、腎移植の過程を、①移植の決断をする前、②決断をしてから実際に移植をするまで、③移植を行った後、の3段階に分けて考えて、それぞれの段階で起こりやすい心理について説明をしてみたいと思います。

①移植の決断をする前

移植をするにあたっては、当然レシピエントご本人のみならず、ドナーの方も一緒に決断をしなくてはなりません。決断をするまでには、医師や看護師の話を聞いて、考えて、話し合っ、それぞれが納得した形で決められることが必要ですが、実際には不安や焦りといった感情が出てきて、冷静に決断をすることが難しくなる場合があります。人間には、不安になりそうな状況に直面すると「何とかなる」「大丈夫に違いない」と思い、自分にとっ

て都合の良い情報しか見えなくなる場合もあれば(これを「楽観主義バイアス」と言います)、逆に極端に悲観的になる場合もあり、そういった考え方が冷静な決断を難しくさせてしまうわけです。

②決断をしてから実際に移植をするまで

決断をして、いざ移植開始に向かって検査などが始まると、手術の不安が大きくなったり、本当に移植が出来るのか心配になったりする場合が多いのですが、レシピエントによっては手術後の状態について過度に期待をされる方もいます。その両方を行ったり来たりして気持ちが不安定になる方もいます。

③移植後

移植を無事に終えた後、多くのレシピエントは月日が経つ毎に徐々に不安が減少し、身体的にも精神的にも元気になっていきます。しかしながらドナーの方の中には、腎臓の一部を失ったことで不安感が徐々に高まっていく人もいます。

またレシピエントの方は、透析などの治療から解放されると同時に、周囲から「健康な人」と見られることとなります。それまでは「病気だから」と許されていたことが、突然許されなくなり、レシピエント本人がその変化に戸惑ってしまうこともあります。逆にレシピエント本人が「今まで入院で休んでいたし、その分、頑張らなければ!」と無理をしすぎてしまうこともあります。透析の期間が長かった人の場合に、そういったことが起こりやすいようです。

以上、移植前から移植後までを3段階に分けて、その時に起こりやすい心理を説明してきましたが、どの段階でも共通点としては、「考え方が極端に傾きやすい」ということが挙げられます。考え方が極端になると、自分の考えと違う意見が頭に入ってくるようになって、どんどん極端な方向に考えが行きがちです。そうならないためにも、移植に関しての不安は一人で抱えず、医療者や家族、友人などに話をして、今の自分の気持ちや考え方を振り返ってみることが有効です。臨床心理室では、そのためのサポートを行っています。

第12話(最終話)では、腎移植とリハビリテーションについてお話していきたいと思います。

医師紹介

のま 野間 さとし 聖 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①呼吸器内科(部長)
- ②呼吸器疾患全般
- ③読書, ワークアウト, 将棋鑑賞, Apple製品
- ④肺の病気は完全に治すことが難しい場合が多いですが、しっかりと治療を行うことで「病気と上手につきあっていく」ことが可能になります。咳・痰・息切れ等の気になる症状があれば、是非受診して下さい



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>